

第1学年社会科（歴史的分野）		年間指導計画・評価規準・評価計画				
月	指導計画	評価規準			評価方法	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	第1章 歴史へのとびら	1節 歴史をとらえる見方・考え方 2節 身近な地域の歴史	・歴史上のできごとについて、世紀、西暦、元号、時代名などを使って適切に説明している。また、原始、古代、中世、近世、近代、現代について正しく理解し、その知識を身につけている。	・進化論が唱えられている理由について自分なりに考察している。	・我が国の歴史上の人物やできごとなどに関心をもち、歴史を意欲的に学ぼうとしている。また、身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統や文化に対する関心を高め、意欲的に調べようとしている。	・到達度試験 ・授業の取り組み
5	第2章 古代までの日本 計6時間	1節 世界の古代文明と宗教のおこり 1 人類の出現と進化 2 古代文明のおこりと発展 3 中国文明の発展 4 ギリシャ・ローマの文明 5 宗教のおこりと三大宗教	・中国文明の発展について、国を統一した王や皇帝についての知識を身に着けている。 ・ギリシャ・ローマの文明の特色について、正しく理解している。	・紀元前3世紀に中国を統一した秦の始皇帝の権力の強さについて考察し、兵馬俑坑や万里の長城のような具体的な事例による根拠にもとづいて表現している。	・歴史上の人物の働きやさまざまなできごとについて関心をもち、意欲的に他の生徒に説明している。	
6		2節 日本列島の誕生と大陸との交流 1 旧石器時代と縄文時代の暮らし 2 弥生時代の暮らしと邪馬台国 3 大王の時代	・世界宗教が広まった時代背景や思想を理解している。 ・渡来人が伝えた技術について、具体的に理解している。	・弥生時代には土地の利用などをめぐる争いがあったことを、矢がささった人骨などのような具体的な事例による根拠にもとづいて適切に表現している	・縄文時代や弥生時代の人々のくらし、クニが出現した経緯、ヤマト王権と大陸との関係などについての関心を高め、意欲的に追究し、遺跡や遺物などのさまざまな文化遺産を尊重しようとしている。	
7		3節 古代国家の歩みと東アジア世界 1 聖徳太子の政治改革 2 東アジアの緊張と律令国家への歩み 3 律令国家の成立と平城京 4 奈良時代の人々の暮らし 5 天平文化	・邪馬台国や大王と大陸とのかわりを理解している。 ・古代日本における仏教と朝廷の関わりと、その背景について正しく理解している。	・ききんや伝染病の流行に対する古代の人々の考え方や対処について、当時の人々の考え方を考察している。	・古代の人々のくらし、聖徳太子が活躍した背景、大仏建立の経緯、律令政治の変化や藤原氏の台頭などについての関心を高め、意欲的に追究し、仏教と朝廷の関連や、重要人物の考え方について関心をもち、調べようとしている。	
8		6 平安京と律令国家の変化	・奈良時代の人々の暮らしと律令政治の変化について、時代背景を正しく考察し、理解している。	・荘園が増えていくなかで、荘官、藤原氏や東大寺、国司たちが考えたこと、また各地の農民の立場や考えを推理し、自分の言葉で適切に表現している。		
9		7 摂関政治の時代 8 国風文化	・日本独自の文化が栄えた理由と内容についての知識を身につけている。			

月	指導計画	評価規準			評価方法	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
10	第3章 中世の日本	1節 武士の政権の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・天皇の子孫である源氏や平氏が、各地の武士団を広くまとめ、武士の棟梁となっていたことを理解している。 ・平氏政権の経済的な基盤が何であるかを理解し、その知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荘園が増えていくなかで、荘官、藤原氏や東大寺、国司たちが考えたことを推理し、自分の言葉で適切に表現している。 ・平清盛が権力を握るようになった理由を考え、具体的な事実をふまえながら自分の言葉で適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の成立とその支配の広まりなどについての関心を高め、意欲的に追究し、中世の特色をとらえようとするとともに、さまざまな文化遺産を尊重しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・到達度試験 ・授業の取り組み
11		1 武士の成長 2 院政から武士の政権へ 3 鎌倉幕府の成立と執権政治 4 武士と民衆の生活 5 鎌倉時代の文化と宗教				
12		2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・元寇に対する武士団の戦いや、その後の武士や幕府が受けた影響について正しく理解している。 ・足利義満が明と勘合貿易を始めた理由を理解し、その知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元軍の襲来以来、御家人たちが鎌倉幕府に不満をもつようになった理由を適切に表現している。 ・戦国大名と守護大名の違いをさまざまな角度から考え、適切に表にまとめ、自分の言葉で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア世界との密接なかわり、武家政治の展開などについての関心を高め、意欲的に追究し、中世の特色をとらえようとするとともに、さまざまな文化遺産を尊重しようとしている。 	
1		1 モンゴル帝国とユーラシア世界 2 モンゴルの襲来 3 南北朝の動乱と室町幕府 4 東アジアとの交流 5 産業の発達と民衆の生活 6 応仁の乱と戦国大名 7 室町文化とその広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代にたくさんの職業が生まれてきた理由を理解し、知識を身につけている。 			
2	第4章 近世の日本	1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教改革がおこった理由、また、宗教改革をきっかけとして、カトリック教会の中でも改革が進められたことを理解し、その知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラム商人を経てヨーロッパに伝わり、その後のヨーロッパに大きな影響を与えたもの、ヨーロッパの国々による新航路開拓の目的を説明し、世界がどのように一体化したかを適切に表現し、鉄砲とキリスト教が日本に受け入れられていった理由を、当時の社会の状況にもとづいて適切に説明している。 ・刀狩と太閤検地によって、どのような社会の土台ができたかを適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人来航の背景とその影響などについての関心を高め、意欲的に追究している。また、世界が一体化していった歴史の変化を、地図を使って進んで表現しようとしている。 ・織田・豊臣による統一事業と対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開など、近世社会の基礎がつくられていったことについての関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 	
3		1 中世ヨーロッパとイスラム世界 2 ルネサンスと宗教改革 3 ヨーロッパ世界の拡大 4 ヨーロッパ人との出会い 5 織田信長・豊臣秀吉による統一事業 6 兵農分離と秀吉の対外政策 7 桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> ・織田信長の政策を三つ以上挙げ、それらのねらいを理解し、中世と異なっていることを知識として身につけている。 			